

インターンシップ推進のための
課題及び具体的効果・有用性に関する調査研究

概要版

2017年3月

文部科学省 高等教育局 専門教育課

1.調査概要

学生

- 調査票タイトル
学生生活に関するアンケート
- 調査対象
全国の国公立の大学・短大及び高等専門学校に通う学生
 - ✓ 調査会社の登録モニターに対し、文部科学省の学校基本調査をもとに、地域6区分(北海道東北/関東/中部/関西/中国四国/九州沖縄)、学校種学年(大学1-2年生/大学3年生/大学4-6年生/大学院生(修士+博士)/短大生+高専生)の構成比割付で告知をして回収
- 調査方法
インターネットリサーチ
- 実査期間
2016年10月24日～11月2日
- 回収数
3,386名
 - ✓ インターンシップの具体に関する設問については、インターンシップ経験者1,033名が、「1日以上2週間未満(1～10営業日)」と「2週間(11営業日)以上」のそれぞれについて、主なものを特定して回答。のべ回答数は1,083件

企業等

- 調査票タイトル
インターンシップ推進のための効果・有用性に関するアンケート
- 調査対象
全国の従業員数5名以上の、新卒採用実施企業
 - ✓ 会社四季報を台帳とし、上場企業/未上場企業を地域6区分(北海道東北/関東/中部/関西/中国四国/九州沖縄)、従業員規模4区分(5-99名/100-299名、300-999名/1000名以上)で構成比割付で抽出した2,500社
- 調査方法
文部科学省の調査である旨を示した封筒により調査票を郵送配布し、郵送で回答を受付
- 実査期間
2016年10月26日～11月18日
- 回収数(2017年1月6日×)
701社
 - ✓ インターンシップの具体に関する設問については、インターンシップ実施企業390社が、「受け入れ期間1日」「同2日以上2週間未満(2～10営業日)」「同2週間以上(11営業日以上)」のそれぞれについて、主なものを特定して回答。のべ回答数は511件

大学等

- 調査票タイトル
インターンシップ推進のための課題及び具体的効果・有用性に関する調査(大学・短期大学・高等専門学校)
- 調査対象
全国の大学・短大・高専1,182校
 - ✓ インターンシップを学部学科毎に実施している学校については、「全ての学部及び研究科(大学の場合)/全ての学科・本科及び専攻科(短大・高専の場合)」、及び「キャリアセンター等(全学のキャリア教育担当組織)」のそれぞれの担当部署が回答
 - ✓ インターンシップを全学共通科目としてのみ行っている場合は、「キャリアセンター等のインターンシップ担当部署」が回答
- 調査方法
文部科学省を通じて全国の大学・短大・高専に依頼した上で、専用WEBサイトに調査票を配置し、回答者のメール送信によって回収
- 実査期間
2016年10月24日～11月11日
- 回収数(2017年1月6日×)
1,019校(回収率86.2%)、2,791件
 - ✓ インターンシップの具体に関する設問については、インターンシップ実施学部・研究科・組織1,683学部等が、「実施期間1日～1週間未満」「同1週間以上2週間未満(6～10営業日)」「同2週間以上(11営業日以上)」のそれぞれについて、主なものを特定して回答。のべ回答数は2,666件

※本調査における「インターンシップ」の定義＝学生が在学中に自らの専攻、将来のキャリアに関連した就業体験

✓ 企業等における実習がないもの、特定の資格取得に関係するもの(教育実習、看護実習、臨床実習等)は含まない

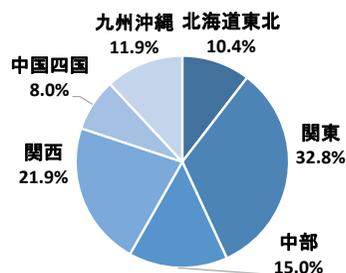
2. 回答者属性

- ・ 学生: いずれも全回答者ベース
- ・ 企業: いずれも全回答者ベース
- ・ 大学: 地域別は学校単位、学校種別・専攻分野別は全回答者ベース

- ・ 学生は、大学4-6年が回答全体の約4割を占める
- ・ 企業等は他に比べて関東、中部の割合が高い
- ・ 大学等は、大学・大学院が回答全体の約8割

学生

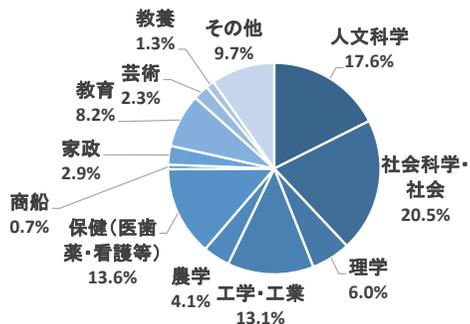
- 地域別 (n=3386)



- 学校種×学年別 (n=3386)

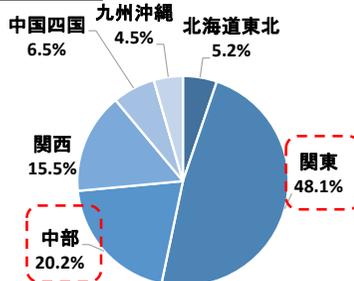
	大学 1・2年生	大学 3年生	大学 4～6年生	大学院生 (修士・博士)	短大 +高専
全体	11.9%	26.8%	41.8%	11.8%	7.7%
北海道・東北	1.1%	2.7%	4.3%	1.3%	1.0%
関東	4.8%	9.0%	13.9%	3.6%	1.4%
中部	1.7%	4.1%	5.8%	1.5%	1.9%
近畿	2.3%	5.7%	9.5%	3.3%	1.2%
中国・四国	0.7%	2.2%	3.5%	0.8%	0.8%
九州・沖縄	1.5%	3.1%	4.8%	1.2%	1.2%

- 専攻分野別 (n=3386)

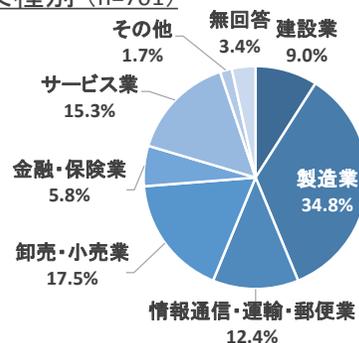


企業等

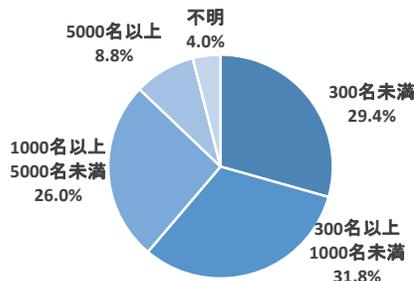
- 地域別 (n=701)



- 業種別 (n=701)

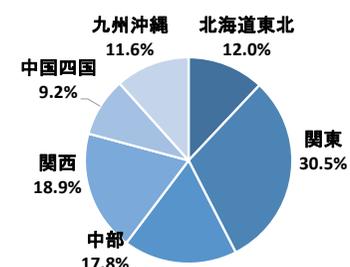


- 従業員規模別 (n=701)

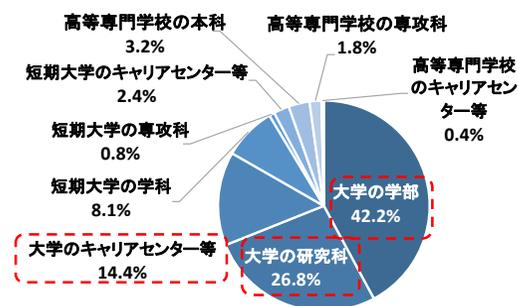


大学等

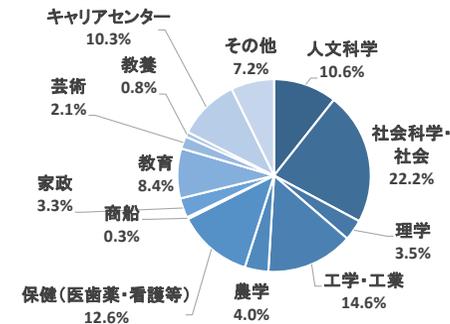
- 地域別 (n=1019)



- 学校種別 (n=2768)



- 専攻分野別 (n=2630)



3. インターンシップ実施状況①

・ 学生:参加率は全回答者ベース、参加期間・応募ルートは実施者(のべ)ベース
 ・ 企業:実施率は全回答者ベース、実施期間は実施社ベース、募集ルートは実施社(のべ)ベース
 ・ 大学:実施率は全回答者ベース、実施期間は実施組織ベース、企業開拓ルートは実施組織(のべ)ベース

- ・ インターンシップの参加/実施率は、学生が約3割、企業等は5割強、大学等は約6割
- ・ 実施期間は、学生・企業等(実施ベース)で5日未満が多いのに対し、大学等(実施・把握ベース)では5日以上1か月未満で8割強
- ・ 企業等の過半数は自社による独自募集を導入。学生も自主応募が6割近くを占める

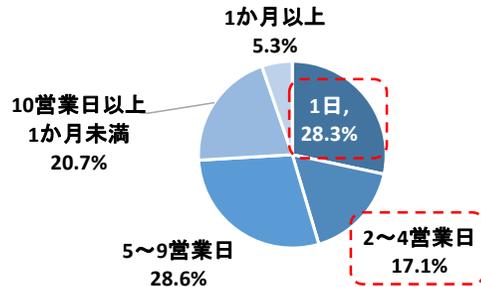
学生

● 参加率 (n=3386)

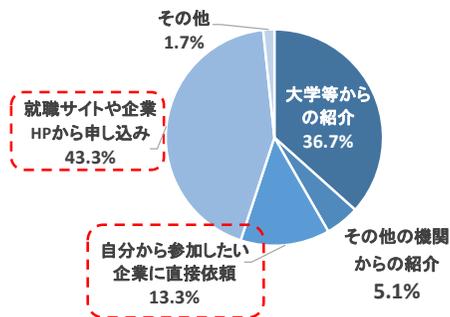
(縦100%)	全体	大学 1・2年生	大学 3年生	大学 4～6年生	大学院生 (修士・博士)	短大 +高専
インターン あり	30.5%	5.0%	27.9%	38.5%	38.7%	23.1%
インターン なし 実習あり	19.5%	12.9%	17.8%	21.3%	15.3%	32.3%
インターンも 実習もなし	50.0%	82.1%	54.3%	40.2%	46.0%	44.6%

※ 実習＝特定の資格取得に関係する実習
(教育実習、看護実習、臨床実習等)

● 参加期間 (n=1083)

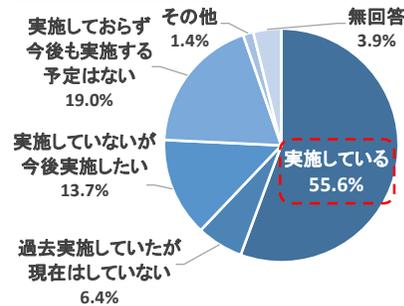


● 応募ルート (n=1083)

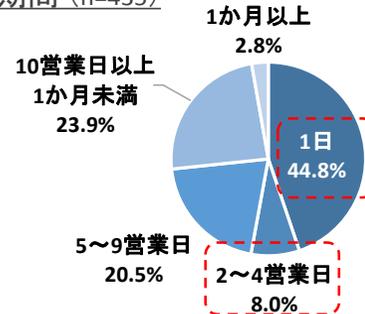


企業等

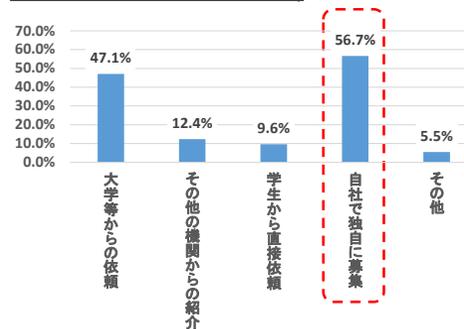
● 実施率 (n=701)



● 実施期間 (n=435)

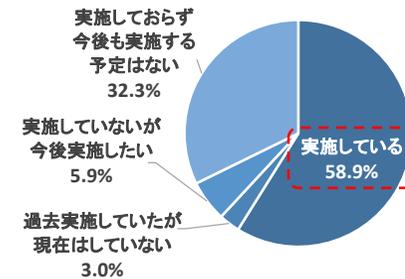


● 募集ルート (n=510; MA)

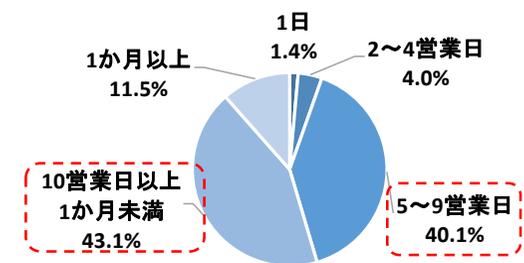


大学等

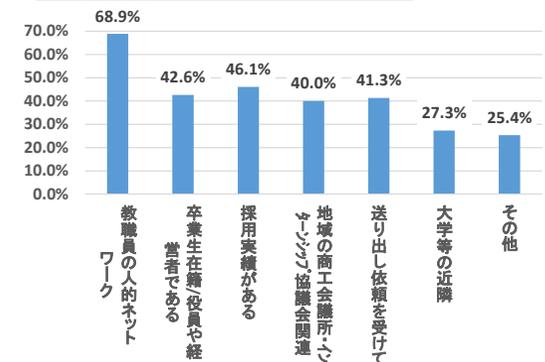
● 実施率 (n=2782)



● 実施期間 (n=2491)



● 企業開拓ルート (n=2450; MA)



3. インターンシップ実施状況②

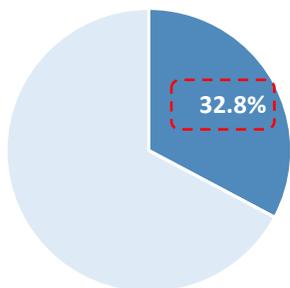
- ・ 学生: いずれも実施者(のべ)ベース
- ・ 企業: いずれも実施社(のべ)ベース
- ・ 大学: いずれも実施組織(のべ)ベース

- ・ 学生の3割強が、「単位取得の成果があった」と回答
- ・ 企業等の4割強が単位認定に関連したインターンシップを実施
- ・ 報酬については、学生・企業等いずれも約半数が「支給なし」

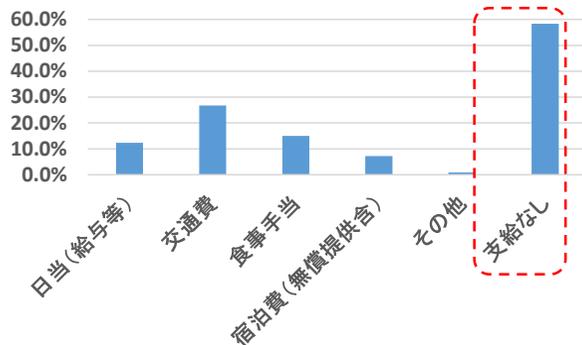
学生

● 単位取得状況 (n=1083)

※インターンシップについて「単位取得」の成果が「大いにあった」「ややあった」と回答した学生の割合

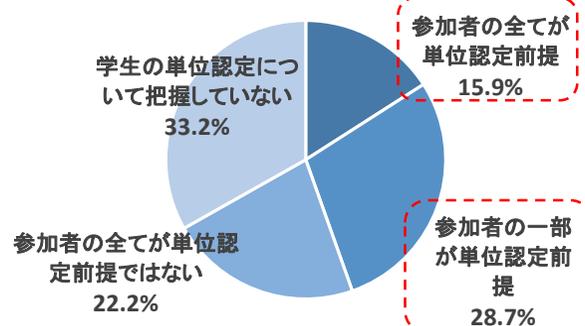


● 報酬の有無 (n=1083; MA)

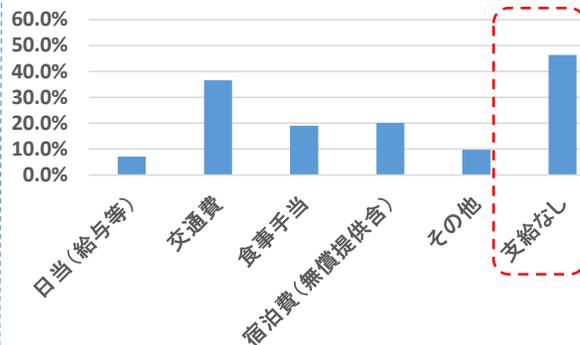


企業等

● 単位化の状況 (n=509)

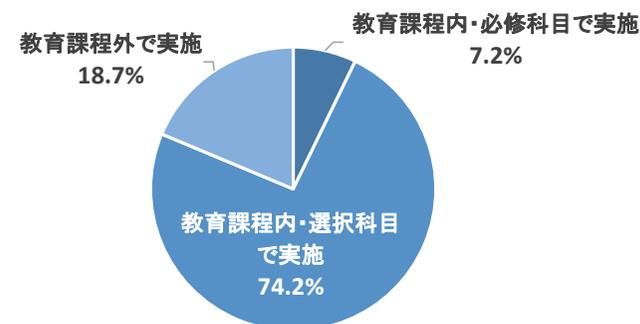


● 報酬の有無 (n=511; MA)



大学等

● 実施形態 (n=2511)



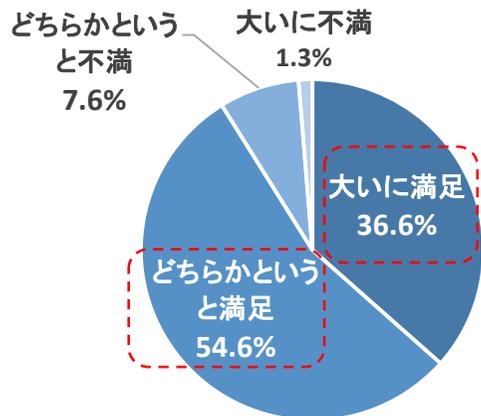
4.満足度、継続意向

・学生:いずれも実施者(のべ)ベース
 ・企業:いずれも実施社(のべ)ベース
 ・大学:満足度は実施組織(のべ)ベース、継続意向は実施組織ベース

- ・学生の9割以上がインターンシップに満足。一方の企業等は3割近くが不満としている
- ・大学等については、「質的不満(教育的効果)」が1割程度に留まるのに対し、「量的不満(学生の参加者数)」は3割強となっている
- ・継続意向は、企業等・大学等いずれも極めて高い

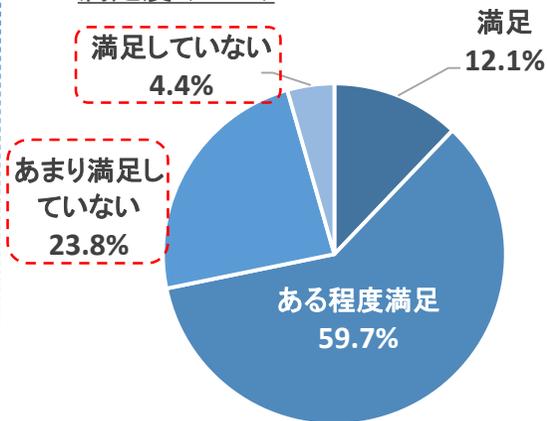
学生

● 満足度 (n=1083)

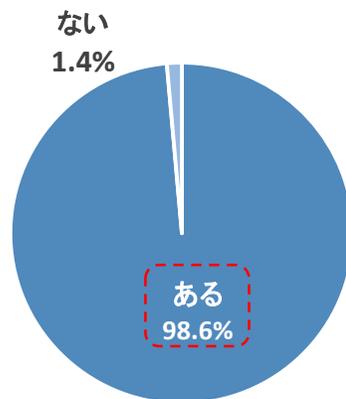


企業等

● 満足度 (n=496)

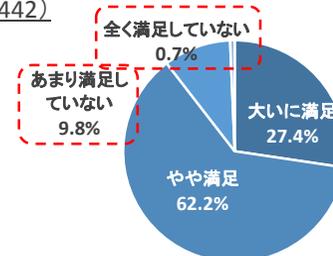


● 継続意向 (n=496)

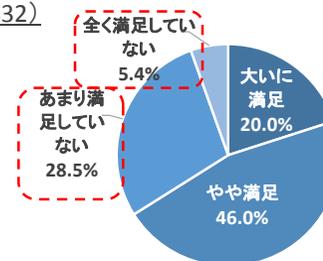


大学等

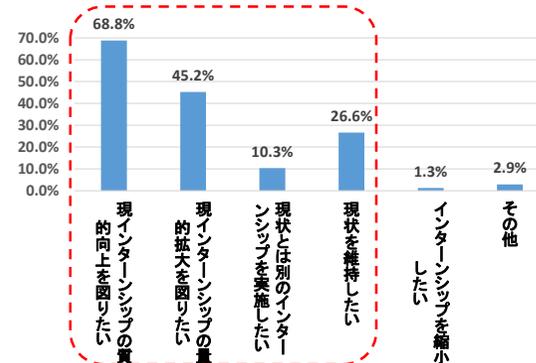
● 質的な満足度(教育的効果) (n=2442)



● 量的な満足度(学生の参加者数) (n=2432)



● 継続意向 (n=1556; MA)



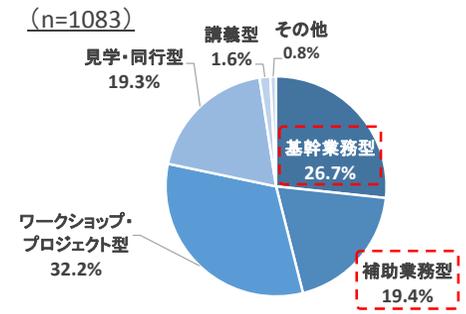
5. インターンシップの内容

- ・ 学生: いずれも実施者(のべ)ベース
- ・ 企業: いずれも実施社(のべ)ベース
- ・ 大学: いずれも実施組織(のべ)ベース

- ・ 学生及び企業等で最も多い形態は「業務経験型(基幹業務型+補助業務型)」で5割弱。ワークショップ・プロジェクト型は3割程度。見学・同行型も2割程度を占める。「講義のみ」は僅少
- ・ インターンシップへの期待は、学生・企業等・大学等いずれも「キャリア関連」「学習・スキル獲得関連」で高く、「就職関連」は限定的
- ・ 「学習・スキル獲得関連」は、期待においては大学等が顕著に高いが、成果は学生とほぼ同水準にとどまっている

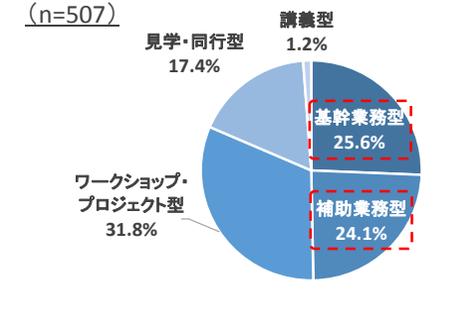
学生

● インターンシップ内容(形態別割合)



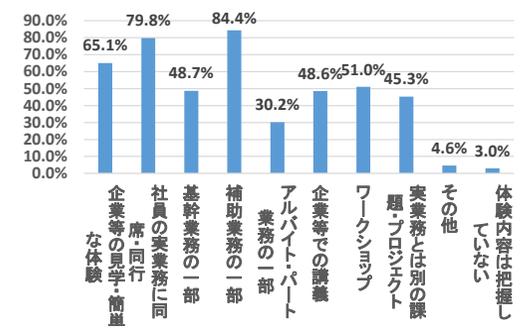
企業等

● インターンシップ内容(形態別割合)



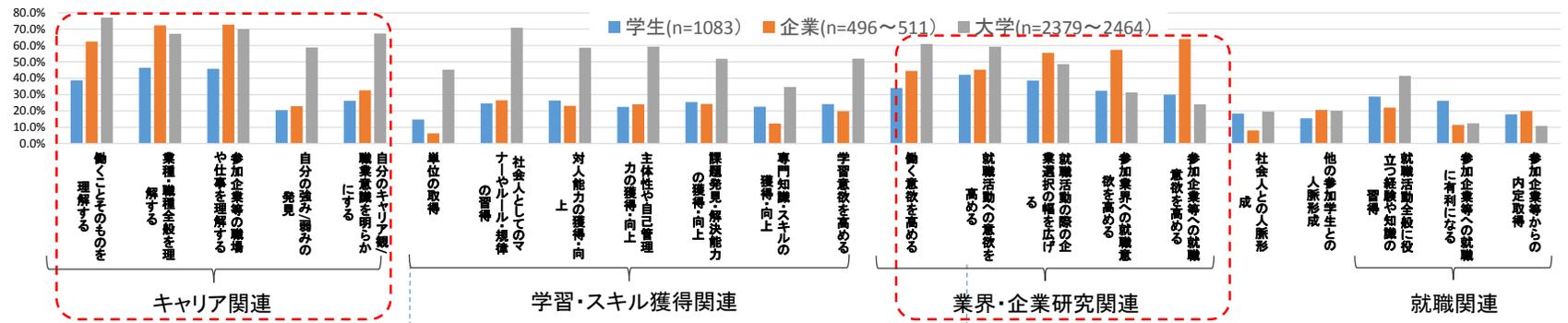
大学等

● インターンシップ内容 (n=2454; MA)



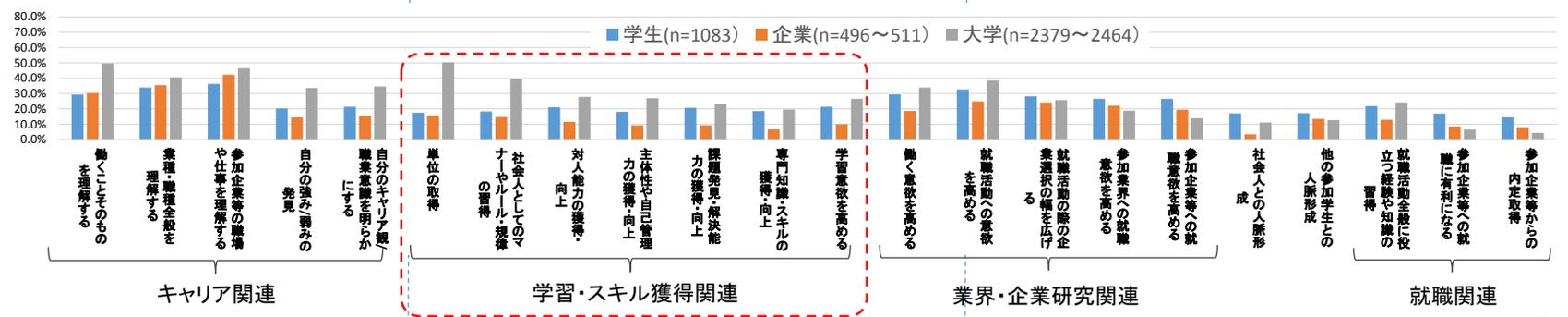
● 期待

※「大いに期待する」の割合



● 成果

※「大いに成果があった」の割合



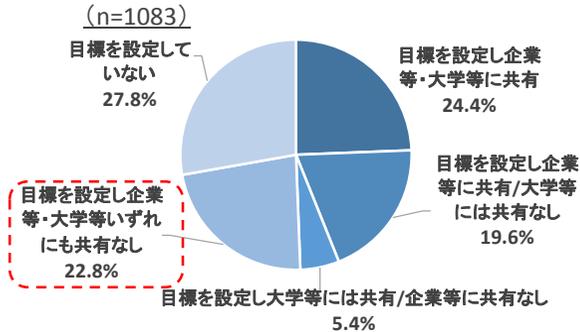
6. 教育的効果を高める取り組み①

- ・ 学生: いずれも実施者(のべ)ベース
- ・ 企業: いずれも実施社(のべ)ベース
- ・ 大学: いずれも実施組織(のべ)ベース

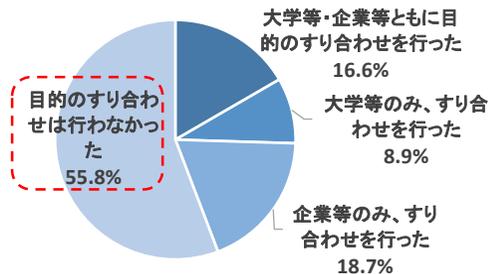
- ・ インターンシップ参加にあたって目標を設定している学生は7割程度。但し2割強は企業等・大学等いずれにも共有していない
- ・ 学生の半数強、企業等の3/4が、他者との目的のすり合わせを行っていない
- ・ 学生の半数以上が、事前事後学習を受けていない。事前事後ともに受けた学生は2割弱にとどまっている

学生

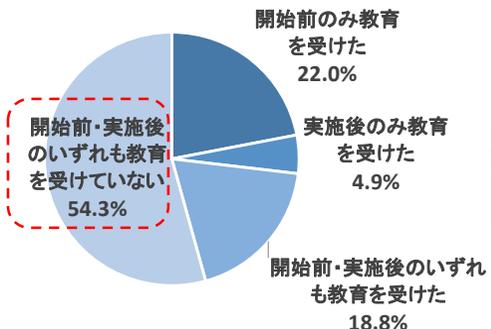
● 参加にあたっての目標設定の有無 (n=1083)



● 目的すり合わせの有無 (n=1083)

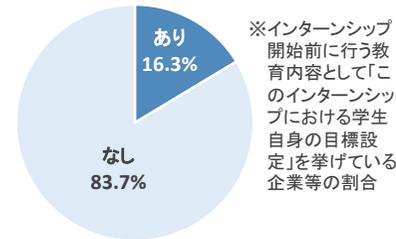


● 事前事後教育の有無 (n=1083)

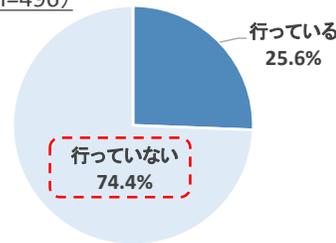


企業等

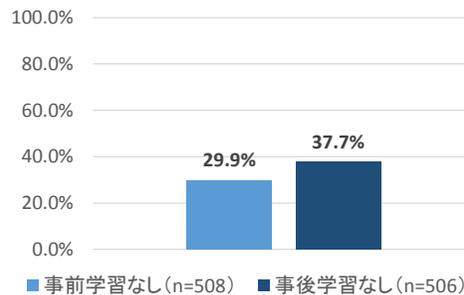
● 参加学生の目標設定の有無 (n=508)



● 大学等との実施目的すり合わせの有無 (n=496)

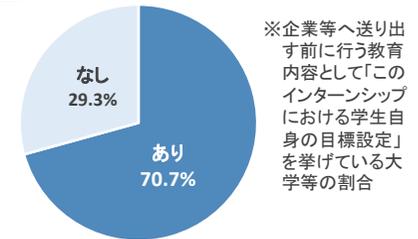


● 企業等による事前事後教育の有無

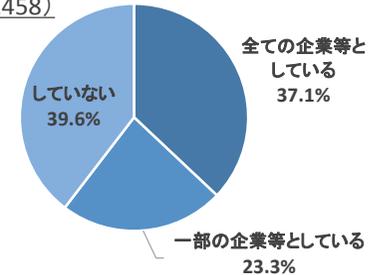


大学等

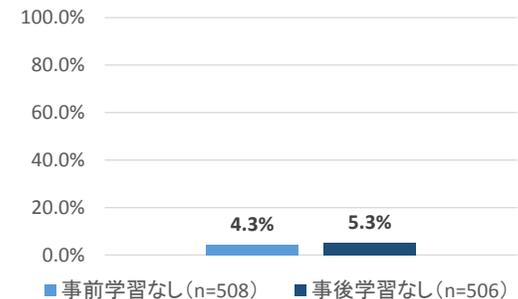
● 参加学生の目標設定の有無 (n=2440)



● 企業等との実施目的すり合わせの有無 (n=2458)



● 大学等による事前事後教育の有無



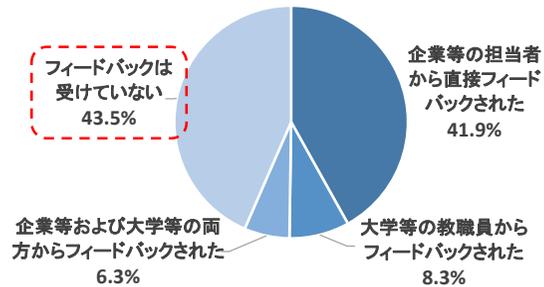
6.教育的効果を高める取り組み②

- 学生: フィードバックの有無は実施者(のべ)ベース、フィードバック評価の根拠はフィードバックあり回答者ベース
- 企業: いずれも実施社(のべ)ベース
- 大学: 評価の有無・評価の有無とその根拠は実施組織(のべ)ベース、振り返りの連携は実施組織ベース

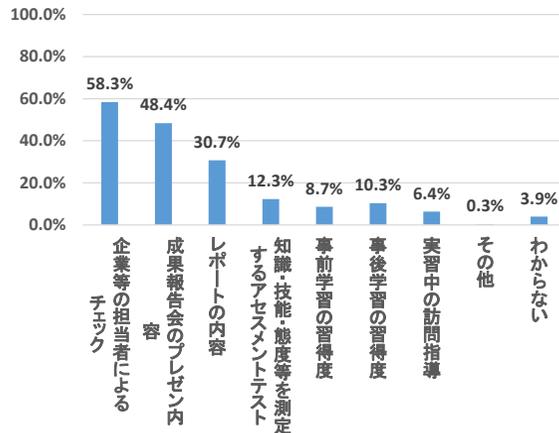
- 学生の4割強が、フィードバックを受けていない。大学等からのフィードバックを受けた学生は15%程度にとどまっている
- 企業等の半数強が、学生へのフィードバックを実施。4割弱は大学等へも行っている。一方で3割弱はいずれにもフィードバックなし
- 評価は個別企業等に委ねられている傾向

学生

● フィードバックの有無 (n=1083)

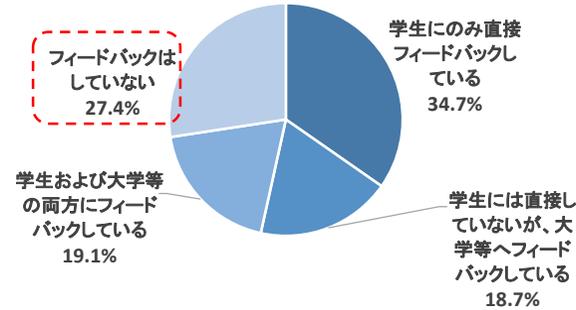


● フィードバック評価の手法 (n=612; MA)

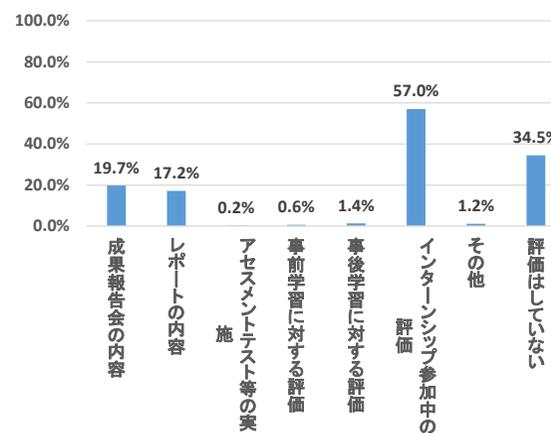


企業等

● フィードバックの有無 (n=507)

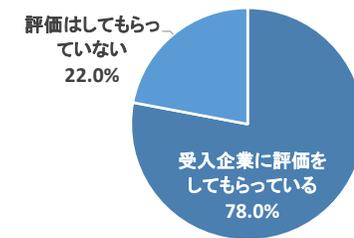


● 評価方法 (n=507; MA)

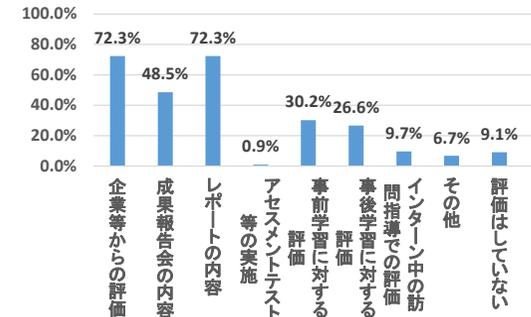


大学等

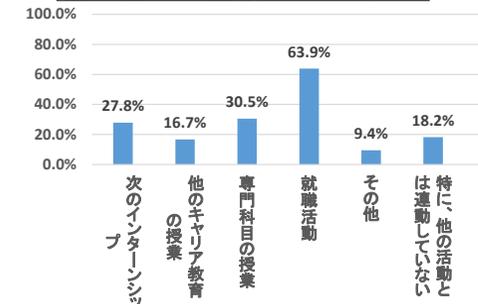
● 評価の有無 (n=2461)



● 評価方法 (n=2468; MA)



● 振り返りの連携 (n=1943; MA)



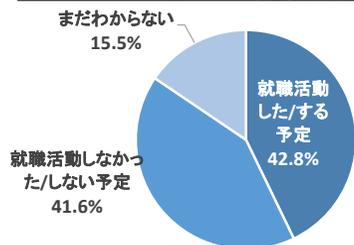
7.就職との関係の実態

- ・ 学生: いずれも実施者の(のべ)ベース
- ・ 企業: 採用活動上の取り扱い・採用選考上の取り扱いは実施社(のべ)ベース、応募/入社状況は実施社ベース
- ・ 大学: 実施組織(のべ)ベース

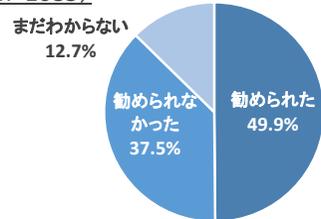
- ・ インターン先への就職活動の有無は拮抗、プレントリーを勧められた実態の有無も二分。2割強がインターン先から内定を取得
- ・ 企業等でのインターン参加学生の採用広報活動上の取り扱いは、半数弱は「一切行っていない」か「解禁後に案内」。採用選考上の取り扱いについては、半数強が「一切行っていない」
- ・ インターンシップ実施目的として「仕事理解の促進」「学生自身のキャリア観の明確化」を挙げる大学等が8~9割であるのに対し、「就職実績の向上」は約25%と低い

学生

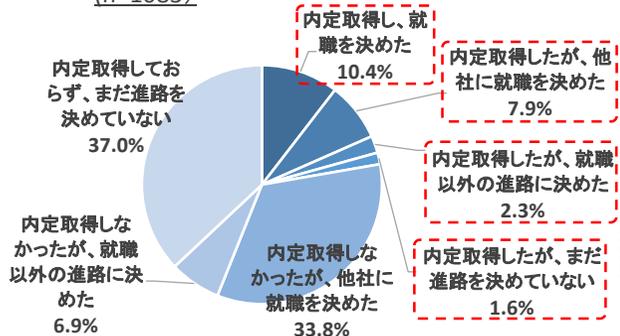
● インターン先への就職意向 (n=1083)



● プレントリーを勧められた実態 (n=1083)

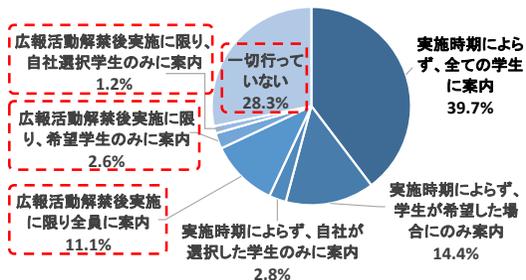


● インターン先への就職(内定)の実態 (n=1083)

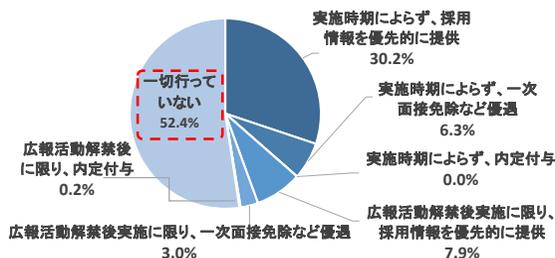


企業等

● 採用広報活動上の取り扱い (n=506)



● 採用選考上の取り扱い (n=504)

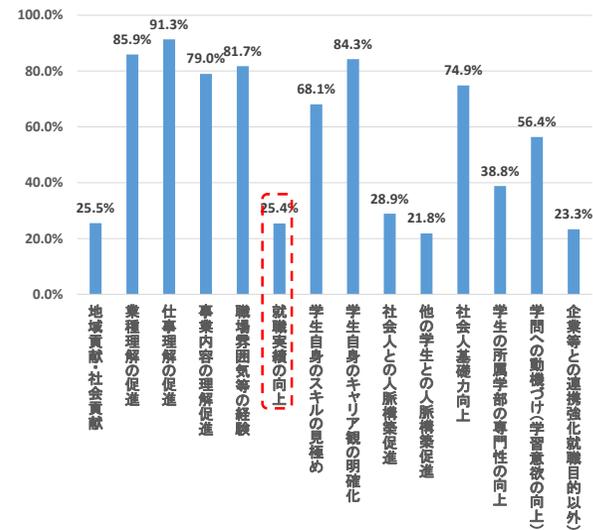


● 応募/入社状況 ※過去3年間累計 (n=360~415)

平均(人)	大学生	大学院生	短大生	高専生
インターン参加	98.6	14.3	2.3	2.5
採用応募	58.9	7.4	0.5	0.4
入社	5.8	1.7	0.2	0.3

大学等

● インターンシップの実施目的 (n=2495)



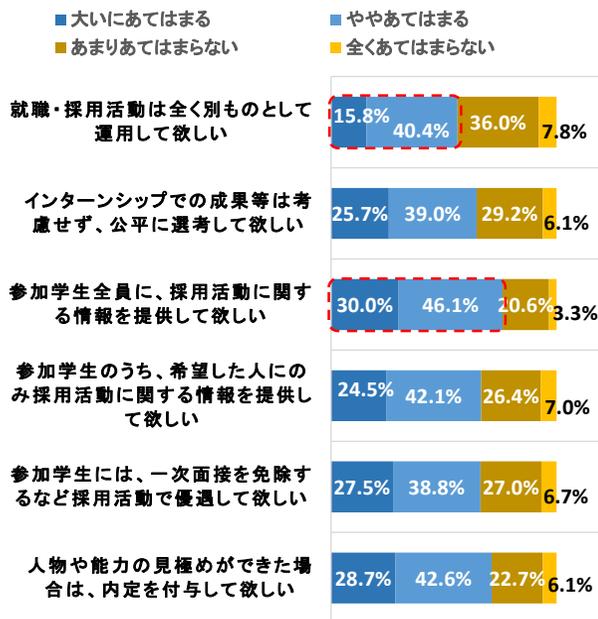
8.就職との在り方に関する意見

・学生:実施者(のべ)ベース
 ・大学(インターン実施):実施組織ベース
 ・大学(インターン非実施):非実施組織ベース

- ・ 学生の半数以上は、インターンシップと就職採用活動との別運用を希望する一方、採用情報の提供希望も一定数あり、賛否はわかる
- ・ 大学等も、採用情報の提供については否定派と肯定派に回答がわかる。採用上の優遇措置には否定的

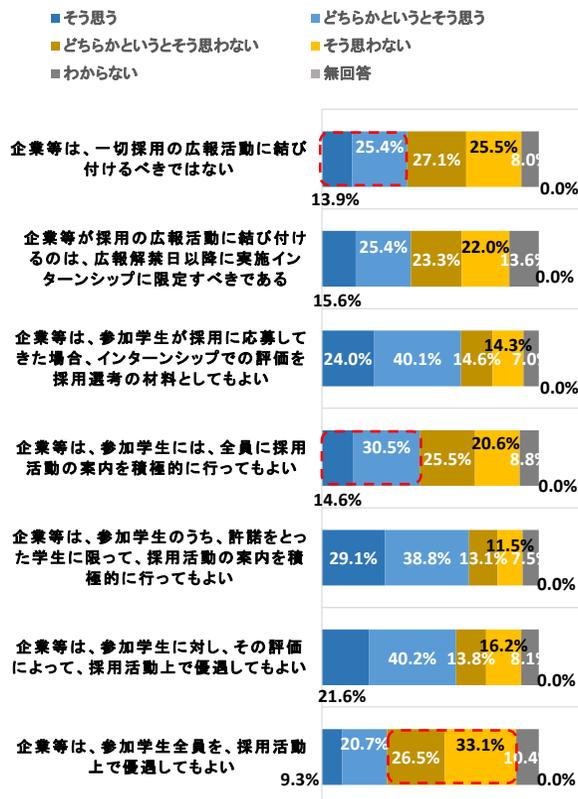
学生

- インターンシップ情報の取り扱いに対する意向 (n=1033)



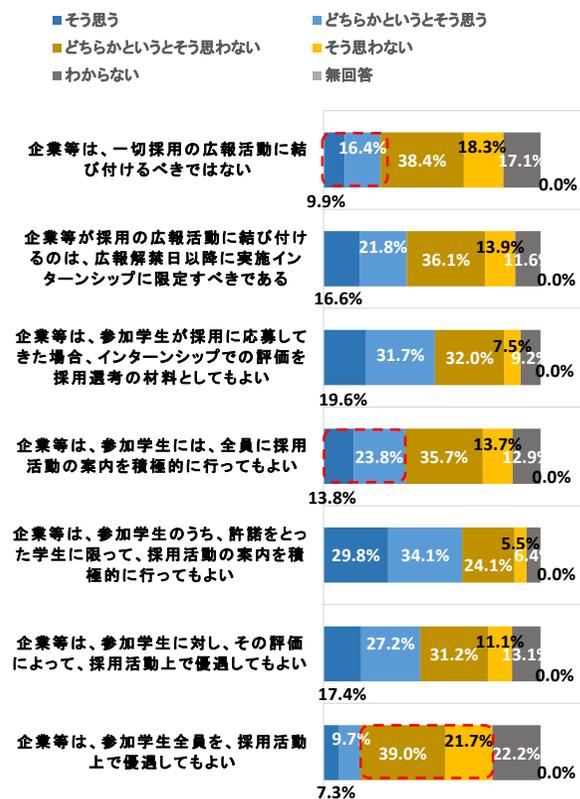
大学等の学部・キャリアセンター等

- インターンシップ情報の取り扱いに対する意向 (n=1560~1567)



(インターン非実施)

- インターンシップ情報の取り扱いに対する意向 (n=1058~1073)



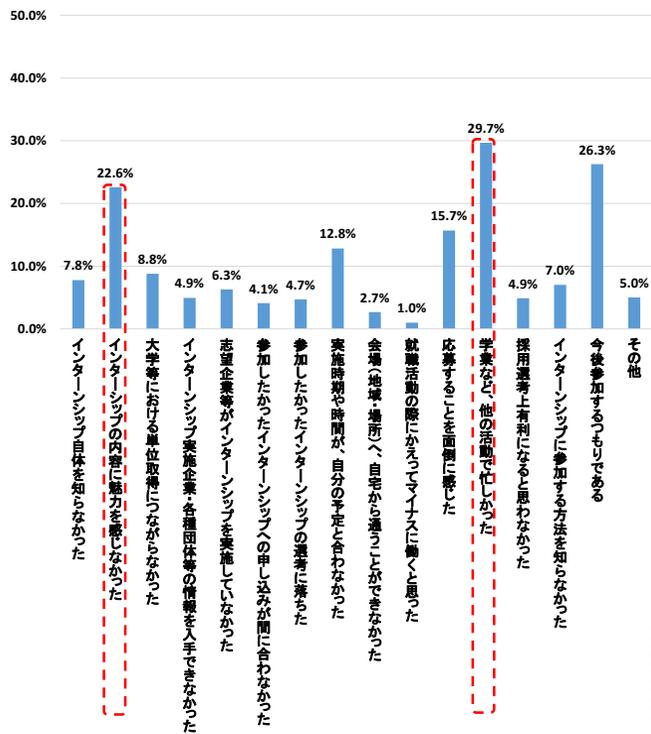
9.実施における課題

- ・ 学生:不参加者ベース
- ・ 企業:実施社ベース
- ・ 大学:非実施組織ベース

- ・ 学生の不参加理由は「忙しい」「魅力を感じない」がトップ2
- ・ 企業等の6割前後が、「社内調整」「人員・場所確保」を課題に挙げている。「採用に繋がらない」は3割程度
- ・ 非実施の大学等においては、3割がカリキュラムの過密さを指摘。また2割近くが希望者数不足・教職員不足を挙げている

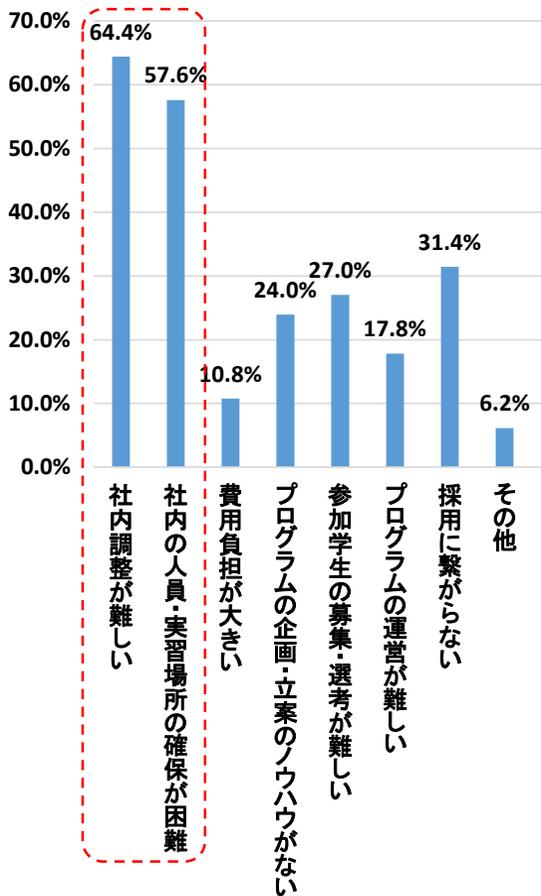
学生

- 不参加の理由 (n=2353)



企業等

- 実施上の課題 (n=455)



大学等

- 非実施の理由 (n=1129)

